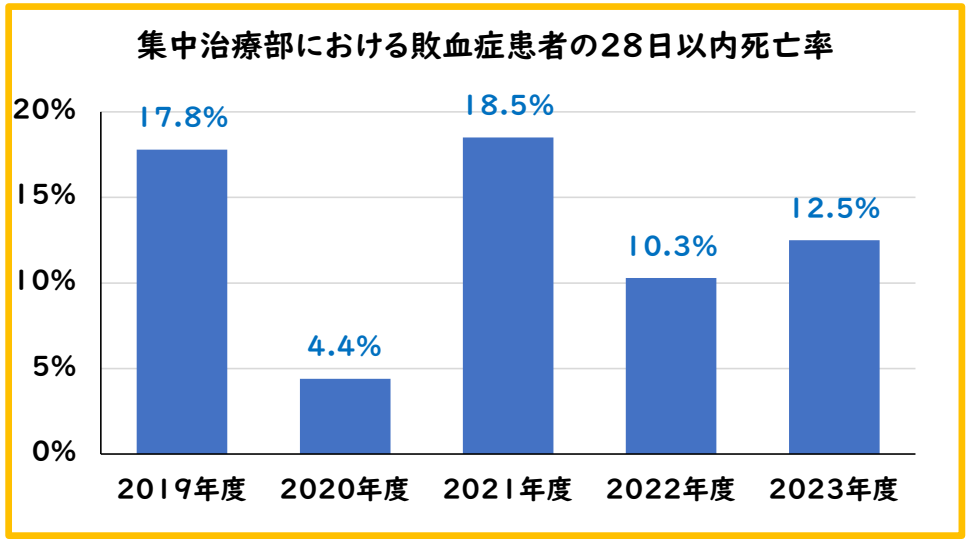
28 集中治療室における敗血症患者の院内死亡率

集中治療部

◆解説◆

敗血症患者管理において、関連学会から標準的治療指針が策定されています。死亡率は年々減少傾向にあるものの罹病率は上昇しており（2010年約11万人から2017年約36万人）、敗血症は依然として集中治療部における死亡原因の上位を占めています。そのため敗血症患者の院内死亡率は、集中治療部において標準的治療が行われているかを表す指標の一つと考えられます。

◆当院の実績◆



◆自己点検評価◆

当施設では、敗血症診療ガイドラインに準じた治療を行うとともに、ガイドラインでは明確な推奨がなくても有効と考えられる症例においては、免疫グロブリン投与やDIC治療なども保険適応の範囲内で行っています。

また、医師、看護師のみならず薬剤師、臨床工学技士、理学療法士などが介入し、多職種による集学的治療を実践しています。

結果として、院内死亡率は低値で推移しており（国内敗血症死亡率約18%）、今後もこの傾向が持続できるように治療にあたっていきたいと考えています。

◆定義◆

診療群分類包括評価病名(病名や治療内容に応じて分類される診療群分類)に「敗血症」が含まれる集中治療部の入院患者のうち28日以内に院内で亡くなられた患者数